

# 強者の戦略

こんにちは。日本史の岡上です。10月といってもまだまだ暑い日が続きますね。とはいえ、秋の訪れも感じる風の冷たさ。季節の変わり目、体調を崩さないように皆さん頑張ってくださいね。

さて、みなさん、1週間ほど時間がありました。どのような解答が仕上がったのでしょうか？今回取り上げた東大日本史の第3問は近世からの出題で「江戸幕府の支配体制」を考えさせる問題でした。

それでは解説を始めていきましょう。

## <江戸幕府が大名と天皇に求めた役割>

### 設問

A (1)・(2)の時期に、幕府は、支配体制の中で大名と天皇にそれぞれどのような役割を求めたと考えられるか。2行以内で述べなさい。

設問Aで問われているのは「江戸幕府が支配体制の中で大名と天皇にどのような役割を求めたのか」ということ。「(1)・(2)の時期」とありますので、資料文(1)・(2)を順に読解していきましょう。

まずは資料文(1)です。

(1) 江戸幕府は、1615年の大坂夏の陣で豊臣氏を滅ぼした後、伏見城に諸大名を集めて武家諸法度を読み聞かせた。その第1条は、大名のあるべき姿について、「文武弓馬の道、専ら相<sup>たしな</sup>嗜むべき事」と述べていた。

資料文(1)では、1615年の元和の武家諸法度（2代秀忠の時代）について言及されています。大名のあるべき姿として、「文武弓馬の道、専ら相<sup>たしな</sup>嗜むべき事」と記されています。江戸幕府が大名に求めていた役割は、武芸の鍛錬を積むこと、すなわち、**江戸幕府に対する軍役を果たすことであったことが分かります。**

次に資料文(2)です。

(2) ついで幕府は、禁中並公家諸法度を天皇と公家たちに示した。その第1条は、天皇のあるべき姿について、「第一御学問なり」と述べ、皇帝による政治のあり方を説く中国唐代の書物や、平安時代の天皇が後継者に与えた訓戒書に言及している。

資料文(2)では、禁中並公家諸法度について言及されています。天皇のあるべき姿として、「第一御学問

# 強者の戦略

なり」と記されています。よって、江戸幕府が天皇に求めている役割は学問に専念すること、となるわけですが、これだけでは解答として不十分でしょう。ここで注目しなければならないのは、その「学問」の内容です。資料文(2)には「皇帝による政治のあり方を説く中国唐代の書物や、平安時代の天皇が後継者に与えた訓戒書に言及」とあることから、ここでいう「学問」とは中国・日本を問わず、過去の政治のあり方(=先例)や儀礼(=有職故実)を学ぶことであるとわかります。つまり、天皇が「学問」に専念することは、伝統的権威を維持することであり、天皇から権威を付与される幕府にとっては、天皇の役割として重要なものであったといえるのです。

## 【解答例】

大名には武芸の鍛錬を積み、軍役を果たすことを求め、天皇には幕府に権威を付与する任命者として、伝統的権威の維持を求めた。(59字)

## <武家諸法度と武士の置かれた社会状況>

### 設問

B 1683年に幕府が武家諸法度を改めたのは、武士の置かれた社会状況のどのような変化によると考えられるか。3行以内で述べなさい。

設問Bで問われているのは、「1683年に幕府が武家諸法度を改めた」理由で、「武士の置かれた社会状況」の変化に注目して考えていく必要があります。1683年の武家諸法度に言及しているのは資料文(3)・(4)ですから、まずは読んでいきましょう。

(3) 1651年、新将軍のもとで末期養子の禁が緩和され、1663年には殉死が禁止された。これらの項目は1683年の武家諸法度に条文として加えられた。

(4) 1683年の武家諸法度では、第1条は「文武忠孝を励まし、礼儀を正すべき事」と改められた。

資料文(3)・(4)から1683年の武家諸法度天和令では、

①第1条の「文武弓馬の道、専ら相<sup>たしな</sup>嗜むべき事」が「文武忠孝を励まし、礼儀を正すべき事」と改められたこと

②末期養子の禁の緩和、殉死の禁止が条文として追加されたこと

がわかります。

①は武芸の鍛錬よりも、「忠孝」や「礼儀」といった儒学的な秩序が重視されたことを示し、②は従来の大名(主)と家臣(従)の個人的関係に基づく主従関係から、大名の家(主家)に家臣(従)が代々奉公するという主従関係へと変化していったことを示しています。

では、そのように武家諸法度が改められるに至った「武士の置かれた社会状況」とは何でしょうか。

# 強者の戦略

天和の武家諸法度が発令された頃は、幕政の安定期にあたります。武士は戦乱の終焉により軍役動員の負担が軽減する一方で、**幕府・各藩では政治機構の整備が進んだため、武士にはその機構に属する官僚としての実務能力が求められました。**さらには為政の規範として武士には儒学の重視も求められました。

## 【解答例】

幕政が安定し政治機構の整備が進むなか、武士社会では家の存続が重視され主従関係も従者が主家に奉公する関係に改まり、武士は官僚としての実務能力と為政の規範となる儒学の重視が求められた。(90字)

さて、みなさんの解答はいかがだったでしょうか？

論述問題の解答はもちろん一つではありませんので、「これはどうだろうか？」と自分では判断つかないものは必ず、添削してもらうことをお勧めします。**この『強者の戦略ホームページ』でもメールにて質問などを受け付けていますので、どしどし送ってきてくださいね。**

それでは、今回はこの辺にいたしましょう。次回「東大日本史のみかた」をお楽しみに！！